# 平成29年政策評価書

千葉県警察重点目標	安全で安心できる県民生活の確保
施    策	交通安全意識の高揚による交通事故防止対策の推進
施策目標	交通事故の総量抑止
施策設定の背景	平成28年における交通人身事故の発生状況は、発生件数、負傷者数は前年より減少させることができましたが、死者数は前年より5人増加し、全国ワースト2位と依然として厳しい交通情勢にあります。 「交通安全県ちば」の実現のため、県民一人一人に交通安全を自身の問題としてとらえ、行動していただけるよう、交通安全意識の高揚を図るための各種対策を推進し、1件でも多く交通事故を減少させる必要があります。
実 施 項 目 1	交通事故分析結果を活用した効果的な交通事故防止対策の推進
推 進 結 果 1	<ul> <li>1 交通事故分析結果に基づき、事故の発生が多くなる時期や時間帯を重点に置いた、制服警察官による街頭監視、パトカーや白バイによる街頭活動などの啓発活動を推進しました。また、県警ホームページを始め、交通安全情報のメール、ツイッターなどの各種広報媒体を通じて、交通安全に関する情報発信を行いました。</li> <li>2 交通事故の発生実態や県民の方々からの要望などを踏まえ、飲酒運転や速度違反といった悪質・危険性の高い違反を始め、交通事故に直結する違反に重点を置いた交通指導取締りを推進しました。</li> <li>3 信号機や横断歩道等の交通安全施設のほか、道路管理者等と連携して、ゾーン30の整備による生活道路や通学路対策を推進するなど、道路交通環境の改善を図りました。</li> </ul>
実 施 項 目 2	段階的かつ体系的な交通安全教育の推進
推進結果2	<ul> <li>1 子供から高齢者まで、心身の発達段階やライフステージに応じた、参加・体験・実践型の交通安全教育を行い、交通安全意識の高揚を図りました。</li> <li>2 夜間、歩行中に被害に遭うことが多い高齢者に対しては、視認性の高い服装や反射材の着装を呼び掛けて、夜間における事故防止対策を推進しました。</li> <li>3 高齢運転者に対しては、加齢に伴う身体機能の低下等の自覚を促す教育を行い、運転免許の自主返納の促進を図りました。</li> <li>○ 交通事故発生状況・発生件数 18,030件(前年比+8件)・死者数 154人(前年比-31人)・負傷者数 22,106人(前年比-290人)</li> <li>○ 交通安全教育の実施状況</li> </ul>

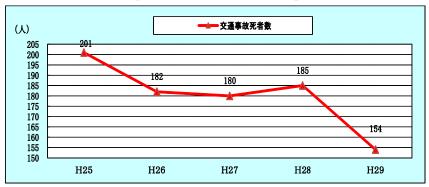
· 実施人数 448, 741人(前年比+34, 060人)

## 実績 (成果) 指標

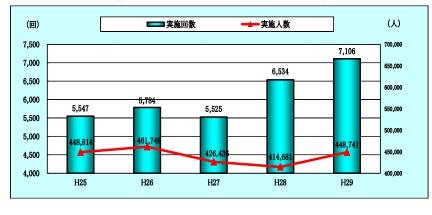
## 【交通人身事故発生件数、負傷者数の推移】



#### 【交通事故死者数の推移】



### 【交通安全教育実施状況の推移】



#### 参 考 指 標

○ 全国における平成交通事故発生件数、死者数及び負傷者数 (平 成29年中)

発生件数 472,165件(前年比-27,036件) 死者数 3,694人(前年比-210人)

負傷者数 580,847件(前年比-38,006人)

効果

総合的な交通事故防止対策を推進した結果、平成29年中は前年と比べて発生件数はプラス8件とほぼ同数であったものの、負傷者数はマイナス290人、死者数はマイナス31人と大幅に減少させることができました。特に、例年100人前後で推移していた高齢者の死者数は74人で、マイナス25人と大幅に減少し、高齢者を始め県民の交通安全意識の高揚に向けた各種対策に一定の効果が認められました。

交通事故死者数は減少(前年比-31人)したものの、全国的に 今後の課題見るとワースト5位と、依然として多発県であります。また、交通 及 び 方 針 事故発生件数もほぼ横ばいであり、依然として千葉県の交通情勢は 厳しいものとなっています。

> このため、交通事故を1件でも減らすためには県民一人一人の交 通安全意識を高めるための対策をより強力に推進する必要がありま す。また、全死者数に占める高齢者の割合は、いまだ約半数を占め ているほか、高齢運転者が第1当事者となる事故の割合に減少が見 られない状況から、高齢者が加害者又は被害者とならないための対 策を推進していく必要があります。

施 策 主 管 課 交通部交通総務課 政 策 評 価 担 当 課 交通部交通総務課